

警城時報

第三千七百二十七號
昭和三年八月一日
（日曜水）
本報發行所 警城時報社
印刷所 警城時報社
電話 四一五
代印所 警城時報社
代印所 警城時報社
代印所 警城時報社

本年の稲作は減收を免れない

今から天気になつても駄目 神尾郡駐在技師談

石城郡の稲作七月下旬の作況はの辭に於ては後藤署長からの推賞分獲期に於ける天候が引續き曇旗授與訓示あり、勿來赤津組頭天、雨天で氣温低く、灌漑水はの祝辭、坂本植田組頭の答辭あ充分であつたが本日の發育は全り正午閉式後海岸にて祝宴を催く不良で草丈、分蘗共に少なくし三時解散したが、當日は今夏前年に比へて遙かに劣つてゐる。はじめの海水沿日和とて多数の人もズイ虫、稻熱病等が発生しその被害も甚大で今年の稲作は天候がこのまゝ回復しても減收は免れないと言はれてゐる。

兩選手

平町出發

青森、東京間マラソンの日本齒科醫學學生鈴木喜政、百瀬清治兩君は多數歡迎禮に於て三十日午後六時平町元平商業學校に於て歡迎の茶話會に臨み住吉屋本店に投宿三十一日午前八時平町を出發したが、兩選手の話しによれば出發後三日程濃霧に遭ひ身体が痛くなつて困つたとの事である

植田町消防組 推賞旗授與式

石城郡植田町消防組の無火災推賞旗授與式は既報の如く廿九日午前十時から同町岩間海岸に開かれ植田署西條巡査部長の開會

く事になつたが、今年毎日現地に通ふ事とし會費も一圓五十錢で間に合はせる事になつた。

水泳大會延期

警城 中學校の水泳大會は廿一日小名濱港内で舉行の筈であつたが天候險惡のため延期となつた

錦村熊野神社 古式の大祭

石城郡錦村熊野神社例祭は一日盛大に執行されるが同祭禮は式典も平安朝時代の古式に則る勅使差遣の大儀によるもので七歳以下の兒童を十八萬石以上の大名に擬し行はるゝことなれ

仁井田浦で臨海學校

平第一小學校尋常五年以上の兒童五十余名は八月一日から四日同新舞子海岸で五日から三日間同新舞子海岸で夏期臨海學校を開るであらう。

警鐘を亂打して 鯉漁船を救助

四倉船荷丸遭難 乗組員は幸ひ無事

警城各濱は數日以來大荒れとなり波のため船体を破壊し進退の被害を蒙つた事は既報の如く自由を失つたので陸上では警鐘であるが、三十日午後二時頃鯉漁場から歸航して四倉濱に着陸せんとした船が救助船を出し事

海荒れの爲 却つて好景氣

却つて好景氣 昨今の小名濱町

警城各濱は別項の如く近來稀な生し列車進行に危険を感ずるに大荒れのため出漁中であつた漁船は全部小名濱に避難したので船工事を待つてゐるが、右船裂を生じたのは今度がはじめて

鍋釜を持ち寄つて 警女校生自炊生活

警城高等女學校では既報の如くバイを飛ばして歸宅の途中同字署中休暇の夏期の計劃として八日地内の石塚橋カブで水戸へ辭掘した結果今同大問題を惹起しをなし附近を暴れ廻つたので平月二日から八日迄小名濱小學校魚をつんで輸送中の平町野口自らが當時入山炭礦では直ちに線路に捕はれ拘留の上三十一日釋約五十名各持鍋釜など各々持動車部トラック（運轉手不詳）と路地下層に強固な基礎工事を施されたが、同人は「家もなく

傾城トンネルの龜裂は 炭礦の爲ではない

原因に疑問を生ず 八月二十日實地調査

湯本、綴驛間の傾城トンネルの炭礦山監督局に調査方を依頼し地盤は本春以來數ヶ所に龜裂をたので八月十日同局安田技師が入山炭礦に出張精密調査を行ふ當時湯本町入山炭礦坑夫朝野忠

預金の賣買に應じます

取扱ひは親切迅速

平町仲田町（電話四五番） 株式會社

村を追はる

外山生

（その六）
村の部落の小高い山に阿彌陀堂がある、年久しく住む人とてなく、如來様外三、四の佛が寂しく安置されて、あま

監獄

入りたいと頼む

してゐないのみならず更に十間たけ遠慮し兩側六十間以内の場所には進捗しない状況であるから今度の龜裂は果して入山のためか否か疑問とされてゐる。

